

美術科

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
「創造的に表す」ことについて自分の感覚を表現する力として、表現する技能の習得支援を充実させる	「豊かに発想する」ことについて、生徒にとって 新たなことを取り入れて表現する力を重点的に指導する

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の平塗や木彫の浮彫技法といった表現技能の定着に差がある。<input type="checkbox"/>ア ・自分の表現と自分の経験を結び付ける考え方の習得に差がある。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や美術資料にある動画資料を活用してイメージをしやすい環境を整える。<input type="checkbox"/>ア ・作品鑑賞や作品アイデアを考える際の振り返り記述を書く機会を設ける。<input type="checkbox"/>イ 	2 学期	生徒各々が木彫技法を動画で確認できるため、生徒の勘違いが減少した。振り返り記述で自分の表現と経験を結び付けられたが、記述の具体性は向上の余地がある。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターデザインといったデザイン表現で配色するための知識的理解の定着に差がある。<input type="checkbox"/>ア ・自分のテーマを設定してそれを深める考え方の習得に差がある。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・配色カードなど視覚的な理解を促す教材を用いて支援する。<input type="checkbox"/>ア ・作品作りに先立って、自分が題材に取り組むためのテーマを考える機会を設ける。<input type="checkbox"/>イ 	1 学期	自分が題材に取り組むためのテーマを深めることを考えられたが、授業で分かったことと分けて考えることが難しい生徒がいた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・三面図や等角投影図を用いた立体把握技能の定着に差がある。<input type="checkbox"/>ア ・自分の表現にある新しいことを取り入れる考え方の習得に差がある。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土模型を用いるなど感覚的に理解できるような補助資料を用いて支援する。<input type="checkbox"/>ア ・自分の考え方を理解する。その上で新しい考え方を取り入れたことを振り返るための支援を行う。<input type="checkbox"/>イ 	2 学期	生徒は振り返り記述や周囲との意見交換の中で、自分の考え方を理解できていたが、客観的に捉えることが難しい生徒もいた。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1 年生の鑑賞での意見交換で、ロイロノートの共有ノートを用いて情報分析を共有しやすいようにする。【重点:協働】</p> <p>2 年生のまちづくり題材では、イメージスケッチを手書きやデジタルで描くことを生徒が選択できるなど、生徒それぞれが取り組みやすい環境を整える。【重点:個別】</p> <p>3 年生の鑑賞での意見交換で、ロイロノートの共有ノートを用いて情報分析を共有しやすいようにする。【重点:協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>学習の見通しをもたせるための工夫として授業全体の計画をプリントにまとめて提示している。また学習を振り返る機会を設けて、自分の表現する過程を順序立てることで再現力を培っている。</p>
---	---